

河原口坊中遺跡

(海老名市No.52 遺跡)

調査期間 20060601～20100215

所在地 海老名市河原口 152
他時代 弥生
古墳
奈良・平安
中世
近世

作成日:20090609 更新:20100219

概要

本調査は中日本高速道路株式会社による首都圏中央連絡自動車道(さがみ縦貫道路)建設事業に伴って実施された発掘調査です。調査は平成18年6月から開始し、平成22年2月15日をもって終了しました。現在は、野庭出土品整理室にて、出土品整理作業を行ってます。

遺跡は海老名市の西部、JR相模線・小田急小田原線厚木駅の北西約1kmに位置し、市域の西縁を南流する相模川中流域左岸に展開する標高21～22mの沖積微高地に立地しています。遺跡の所在する河原口地区は小鮎川・中津川が相模川に合流する三川合流地点の対岸に当たります。遺跡の北東60mには平安時代末から室町時代に活躍し、海老名市の名前の由来にもなったと言われる「海老名」氏の菩提寺「宝樹寺」跡と推定されている墳墓が隣接しています。調査は、道路橋脚部分(ピア)のみが対象になっており、上下線あわせて19個のピア(P)があります。

P24 上下線では、明治時代に醤油醸造業を営んでいた古川商店の土蔵造りの建物基礎が2棟検出されました。古川家は江戸時代後期から続く醤油屋で、明治時代に古川謙氏が海老名村村長に2回就任しています。明治37(1904)年に醤油醸造免許を取り消して廃業しています。大正12年に謙氏没後土地家屋を売却しており詳細は不明でした。調査で



▲P24 石敷き基礎の建物址



▲P21 弥生時代竪穴住居址群

は川原石を敷き詰めた外壁基礎部分と土間下に砂を充填した施設や芯柱の基礎などが良好な状態で残存していました。

P21 上り線は約 14.5m四方の調査区ですが、弥生時代中期から古墳時代初頭の竪穴住居址が 31 軒発見されました。土器や磨製石斧などもたくさん出土していますが、青銅製の銅環(どうかん)やガラス小玉など繊細な遺物も複数出土しています。古墳時代前期には方形周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ)が造られ、集落から墓域へと変化したようです。古墳時代後期にも円墳の周溝と小石室が検出されました。



▲P21 銅環出土状況